

企業訪問レポート

「光輝く地元横浜の企業紹介」



本日は弊社JVCケンウッド・公共産業システムと同じ「横浜企業」としてご活躍されている株式会社野毛印刷社様にインタビューをさせていただきました。今回は普段のお仕事では語られることのない貴重なお話をお伺いさせていただきましたので、是非最後までお読みください!!

プロフィール



株式会社野毛印刷社様は1948年（昭和23）に創業。横浜市南区に営業企画本部を置かれ、様々な企業、学校、団体様向けに印刷を主軸として、WEB、動画コンテンツを展開されている創業73年目の企業様です。クロスメディアを事業として多様化する情報伝達手段の中でお客様に最適なお提案されています。

— 本日はどうぞよろしくお願いいたします! それでは早速お話をお伺いさせていただきます。まずは、御社の自己紹介をお願いします。事業内容や御社ならではの特徴をお聞かせください。

藤原 こちらこそよろしくお願いいたします。

当社は野毛エリアで創業をし、事業が拡大するにつれて、馬車道エリアに移転し現在では横浜市南区に営業企画本部がございます。工場は八景島シーパラダイスの近くの福浦エリアでございます。営業企画本部と福浦工場の2拠点で営業が頂いたお仕事をデザイン制作から印刷、製本、加工、仕分け発送までをワンストップでお仕事をさせていただいております。

現在の情報伝達手法は多様化していますので印刷物（紙媒体）だけではなくWEBや動画などのコンテンツ制作も承っております。そうした媒体を通してお客様にクロスメディアという考えを基に最適な情報伝達をご提案させていただいております。

— 当社でも野毛印刷さんに事例コンテンツやホワイトペーパーの作成をお願いさせていただきましたね。その時はインタビューや撮影までお手伝いいただきました。制作に関わるコンテンツ作成まで手掛けていらっしゃいますね。

藤原 その際はありがとうございました。印刷だけではなく、そのコンテンツ作成までお手伝いさせていただいております。

クロスメディアによるアナログとデジタルの融合



— 先ほどクロスメディアとお話いただきましたが、どのような取り組みかお聞かせいただけますか。

藤原 当社はアナログとデジタルの2軸でお仕事をさせていただいております。

クロスメディアとは1つの商品やサービスをさまざまな媒体を用いて広告宣伝をする手法です。アナログ媒体、デジタル媒体の強み、弱みを相互補完し合うために導線設計から考えて媒体選定と企画デザインをさせていただきます。

— ありがとうございます。作成するツールの本来の目的からご提案いただけるのはとても心強いですね。

付加価値のある印刷物で他社と差別化

— それでは他の印刷会社さんとは違う点などございますか？

藤原 はい。

一つ目は型抜機を持っているので特殊な形に切り抜く加工ができます。

それを使って飛び出す絵本のようなポップアップカードの作成など最近ではご相談いただくことが増えています。



二つ目がロジスティクスサービスです。

当社の「ロジ工房」というシステムを使っていただき、今まで各支店や店舗からメールやFAX、電話などで販促ツールの発注連絡が来て、それを印刷して発送していた業務を効率化していただくサービスです。今までその業務で一日が終わってしまっていたことをシステムを導入いただくことで本来業務に集中できるようになったとお話いただくこともございます。



三つ目が当社には防災に特化した商品がございます。

「災害対応マニュアル」と「みんな森の仲間とオオカミのサイレン」という絵本がございます。

災害対応マニュアルは10年前から販売をして累計290万部を発行しています。

地震だけではなく自然災害が増えている現代で、災害時にどのような行動を取るべきか忘れがちな情報をポケットサイズのマニュアルとしてまとめています。私たちは知識習得のために防災士の資格も取得しました。

みんな森の仲間とオオカミのサイレンという絵本は横浜市消防局が企画・監修をいただき当社が出版した絵本です。こちらは書店や通販サイトでお買い求めいただけます。

— それでは次のご質問です。地元横浜ではどのようなお客様とお付き合いがありますか？

藤原 印刷会社の特徴ですが様々な業種のお客様とお付き合いをさせていただいています。製造業、小売、大手の企業様、学校、団体など沢山お付き合いさせていただいています。

— そうすると、横浜以外でもお付き合いがありますか？

藤原 あります。神奈川県、東京エリアがメインです。

先ほどご紹介した災害対応マニュアルという商品は全国で販売しております。

— 様々な業種のお客様がいらっしゃるとのことですが、コロナ禍においてお仕事の変化はありましたか？

藤原 頂くお仕事の内容が変わってきました。

動画やWebの受注、引合が非常に増えてきました。カタログを作っても営業が配りに行けないなどでカタログなどの印刷物は少なくなりましたが、代わりにオンラインツールの作成のご相談が増えました。

コロナ禍を皆様と一緒に乗り越えたい



— スタジオも持っていますよね

藤原 はい。そのスタジオでライブ配信のお手伝いや動画を作ったりしています。特にライブ配信のご相談が多いです。今までリアルで出来ていたことが、できなくなったことによりライブ配信でやりたいというお声にお応えするために、ライブ配信サポートというサービスを始めました。お客様は話す内容に集中していただき当社は裏方の配信支援をお手伝いさせていただきます。

— コロナ禍でお仕事の内容が変わってきているんですね。そうしたまだ不安定な世の中が続いていますが、今後の展望などお聞かせいただけますでしょうか。

藤原 コロナ禍で皆様の仕事内容や営業手法、販促手法が大きく変わってきていると思います。そうした社会変化に伴う、情報伝達手法の変化に対しても当社として最適な情報伝達手法を考えてこれからも皆様のお役に立てることができる企業でありたいと考えています。また、以前までは横浜サンプラザプロジェクトなどのリアルイベントにも協賛もさせていただいていました。コロナ禍で開催ができていませんが、私たちが持っているサービスや設備を使って地元横浜を活性化していきたいとも考えています。

— 最後に地元横浜の好きなおとこ、企業として思い入れのある場所がありますか？

藤原 野毛エリアです。創業した場所であり、営業企画本部からも近いので忘年会などはそのエリアで行うことがありました。最近ではできてないですけどね。そうした、横浜の風景を撮影して当社のハマコミ（会報誌）の表紙にしたりしています。



— 色々和本日はお話いただきありがとうございました。

インタビューを終えて



印刷物のみならずWeb制作・動画配信まで、マルチメディアでの情報伝達でお客様に最適なサービスを提供している野毛印刷社様。

防災をテーマにしたオリジナル絵本を出版するなど、社会の安全・安心を願う考えは、当社の事業（映像・音響の製品サービスを通して社会の安全・安心に貢献する）とも通じるものがあり、たいへん印象的でした。

また、地元イベントへの協賛や会報誌の発信など、お客様との繋がりをとても大切にし、地元活性化に尽力しているというお話には、同じ地元企業としてとても共感しました。

これからも共に横浜を活気づけていこうと思えるインタビューになりました！

●記載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。●記載の法人・団体名・組織名・所属・肩書などは、全て取材時点のものです。

 野毛印刷

<http://www.noge.co.jp>

株式会社 野毛印刷社
横浜市南区新川町1-2

公式Twitter



公式Facebook



●本資料は当社の著作物につき、無断転用を禁止します。

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム <https://jkpi.jvckenwood.com>

K/SET21-001 2021年8月 作成

マーケティング統括部 事業戦略部 マーケティンググループ

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町 3-12 E-mail : marketing-jkpi@jvckenwood.com

a JVCKENWOOD Company